
**2013年3月期 決算 及び
2014年3月期 業績見通し
説明資料**

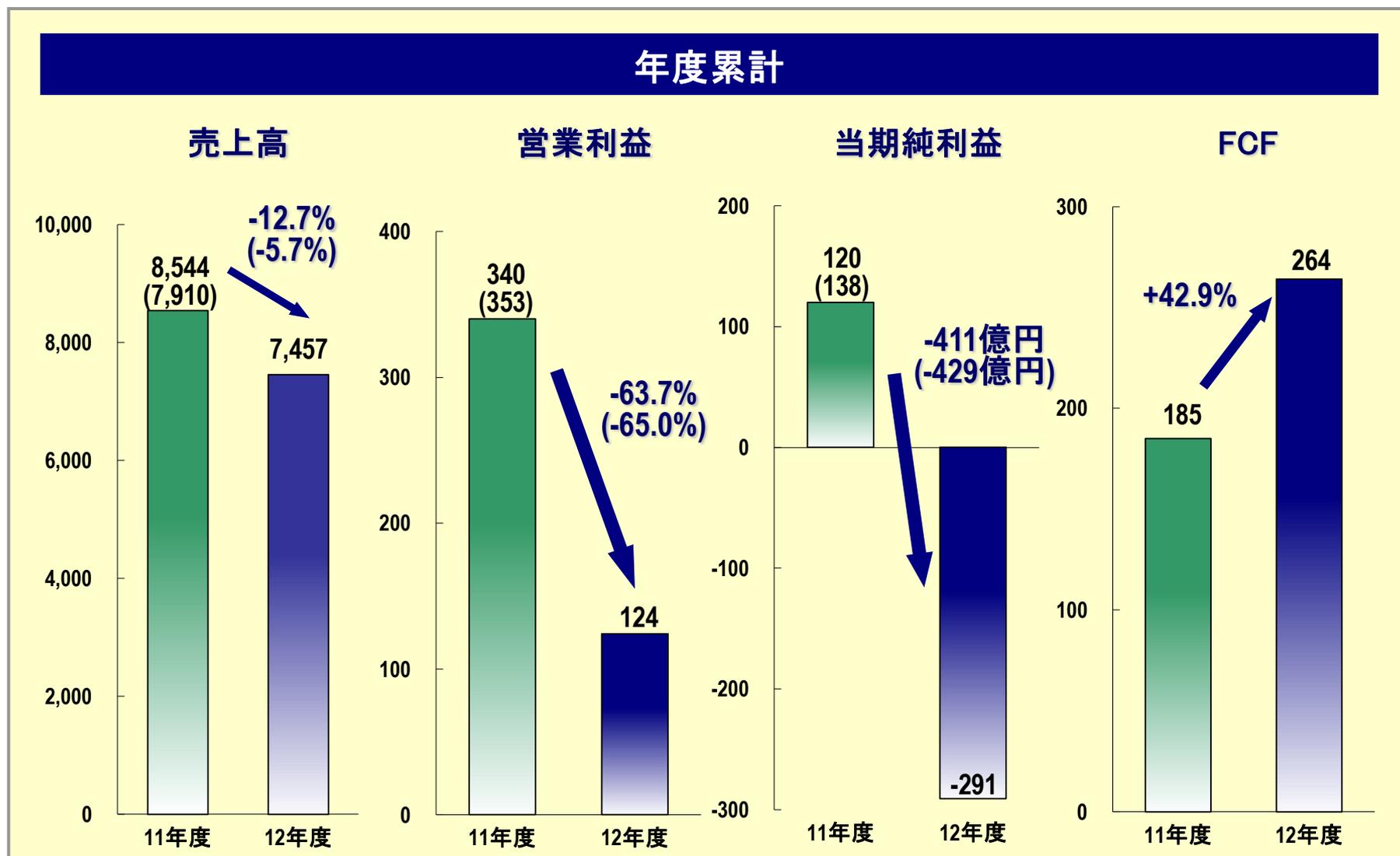
帝人株式会社

2013年5月9日

2013年3月期 決算概況

(1) 2013年3月期 決算概況

(億円)



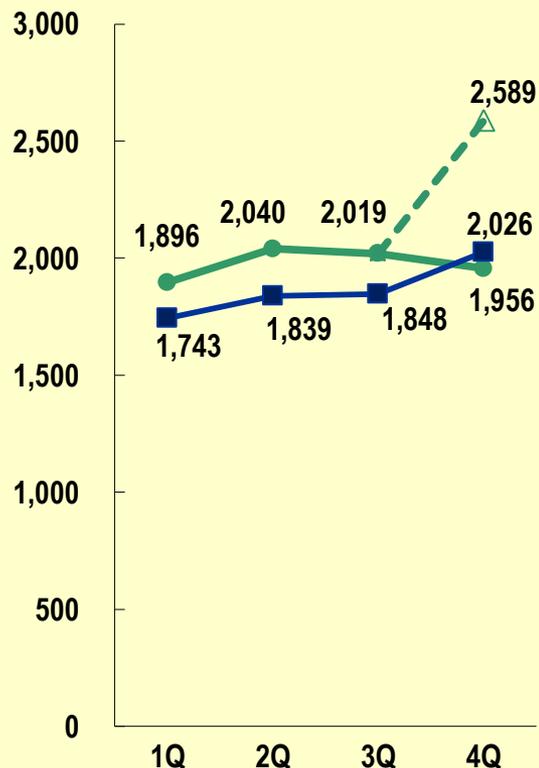
* ()内 決算期統一影響除き

(億円)

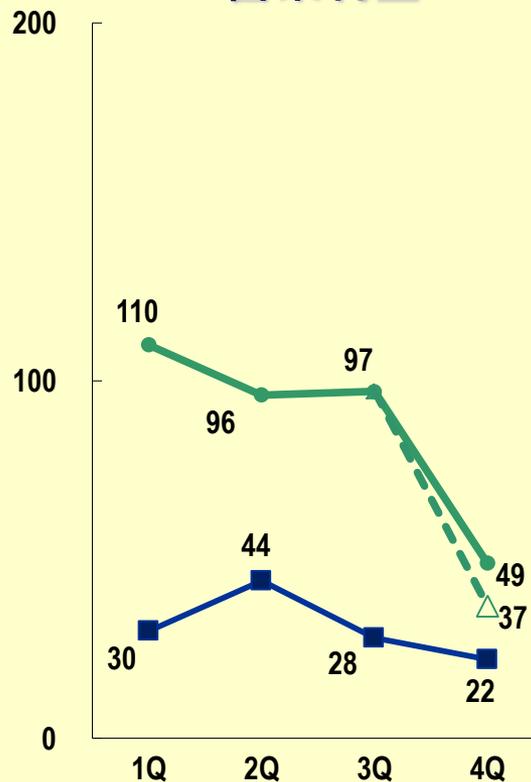
四半期推移

● 11年度 ■ 12年度

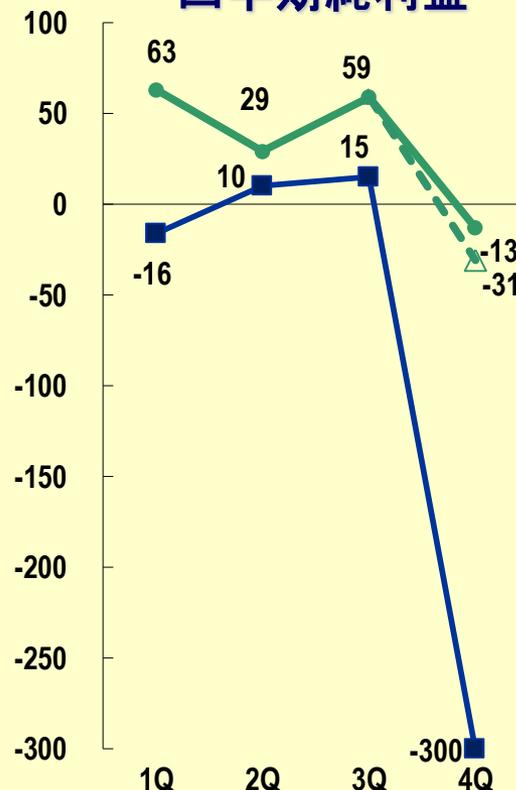
売上高



営業利益



四半期純利益



* △は一部子会社の決算期統一影響額を含んだ数値

◆ 経営成績

(億円)

	11年度	12年度	差異金額
売上高	8,544	7,457	-1,087
営業利益	340	124	-217
<営業利益率>	4.0%	1.7%	-2.3%
営業外損益	2	-26	-28
経常利益	343	98	-245
特別損益	-65	-319	-254
税金等調整前 当期純利益	278	-221	-499
法人税等	147	61	-86
少数株主損益	11	9	-2
当期純利益	120	-291	-411
EPS(円)	12.17	-29.61	-41.78

EBITDA *1	863	592	-271
設備投資 *2	323	363	+40
減価償却費	523	469	-54
研究開発費	318	332	+13
FCF	185	264	+79

- 売上高、営業利益 減収・減益
 - ・ 欧州に加え、新興国でも景気減速
素材事業の業績低迷
- 経常利益 減益
 - ・ 持分法による投資利益減少
- 当期純利益 大幅悪化
 - ・ のれん等の減損損失計上

◇ PL換算レート

	11年平均	12年平均
円 / 米ドル	80	83
円 / ユーロ	110	107
米ドル / ユーロ	1.38	1.29

*決算期統一前のため、2011年度の平均は
2011年1月～2012年3月のレートを使用

◆特別損益等

(億円)	11年度	12年度	差異
固定資産売却益	3	14	+11
投資有価証券売却益	13	0	-12
関係会社株式売却益	7	—	-7
退職給付制度改定益	—	4	+4
その他	7	5	-2
特別利益 計	29	24	-6
固定資産除売却損	10	15	+6
投資有価証券評価損	2	8	+6
減損損失	26	294	+268
退職給付制度改定損	33	—	-33
その他	23	26	+2
特別損失 計	94	343	+249
特別損益 計	-65	-319	-255
法人税等	147	61	-86
少数株主損益	11	9	-2

➤ **特別損益**: $\Delta 319$ 億円

減損損失 294億円

主に、

- ・炭素繊維事業 のれん
- ・ヘルスケア事業 のれん
- ・炭素繊維事業 固定資産

➤ **法人税等**

税前利益 $\Delta 221$ 億円



のれん減損・償却
税効果(赤字会社等)

⇒法人税等 61億円

当期純利益 $\Delta 291$ 億円

◆ 財政状態

(億円)	12年3月末	13年3月末	差異	内 為替 換算影響
総資産	7,621	7,624	+3	+271
自己資本	2,920	2,713	-208	+92
有利子負債	2,610	2,708	+97	+127

D/Eレシオ	0.89	1.00	+0.10
自己資本比率	38.3%	35.6%	-2.7%

➤ 総資産 横ばい:

- ・減損処理により固定資産減少
- ・為替換算差により増加
- ・投資有価証券評価額増加

➤ 自己資本 減少:

- ・当期純損失の計上
- ・為替換算調整の控除額減少

➤ 有利子負債 増加:

- ・為替換算影響

◆ キャッシュ・フローの状況

(億円)	営業活動	投資活動	FCF	財務活動他	現金及び 現金同等物 増減
12年度	643	-379	264	-110	154
11年度	537	-352	185	-137	48

◇ BS換算レート

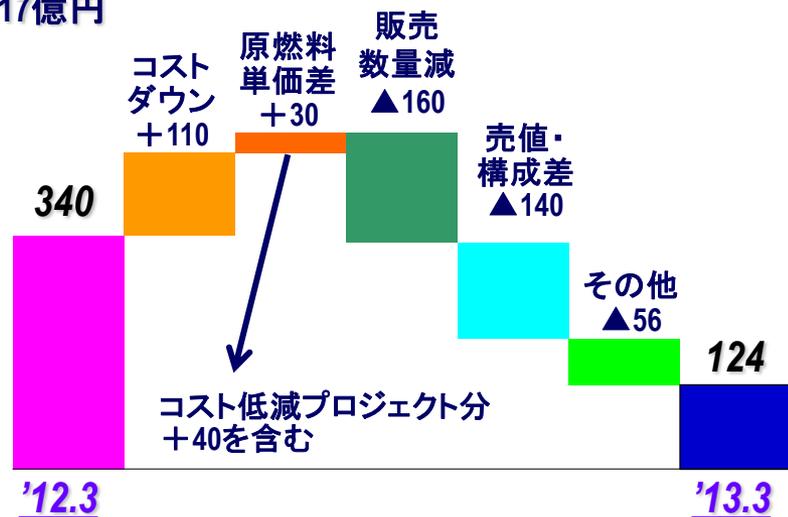
	12年 3月末	13年 3月末
円 / 米ドル	82	94
円 / ユーロ	110	121
米ドル / ユーロ	1.34	1.28

◆ 経営成績及び財政状態増減内訳

◇ 営業利益

▲217億円

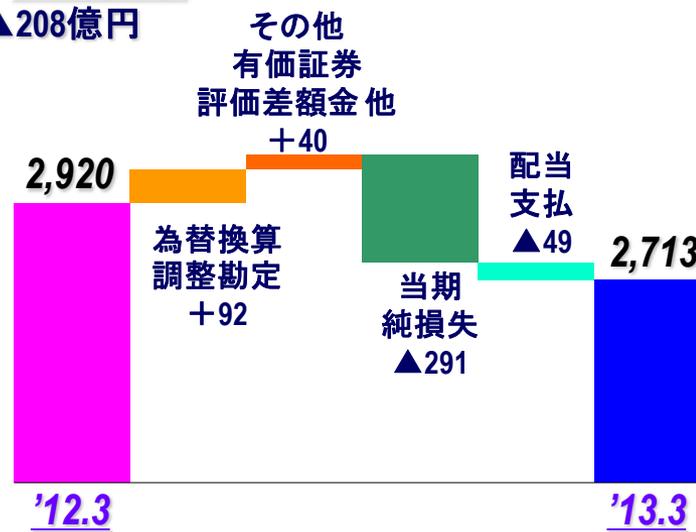
(億円)



◇ 自己資本

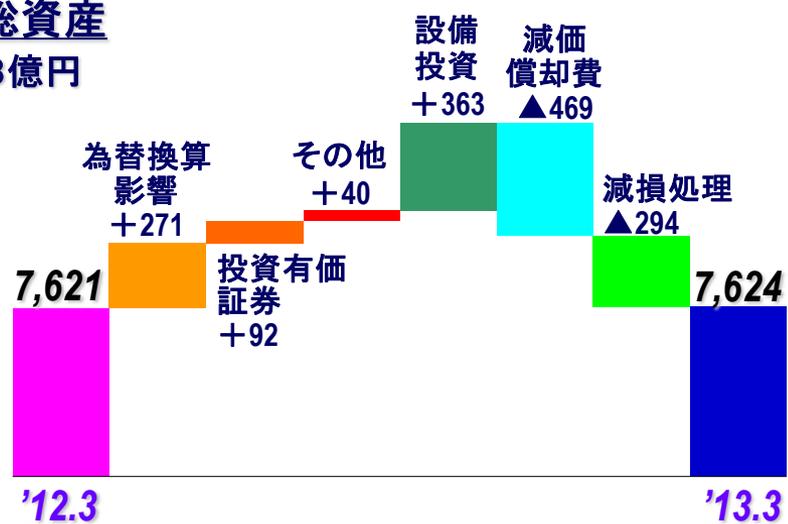
▲208億円

(億円)



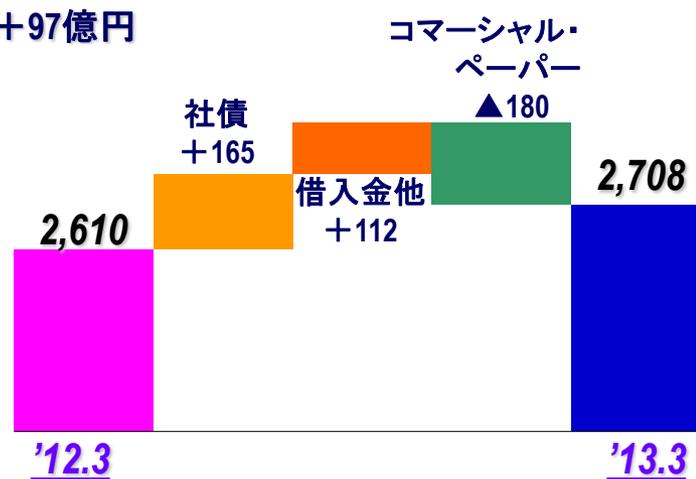
◇ 総資産

+3億円



◇ 有利子負債

+97億円



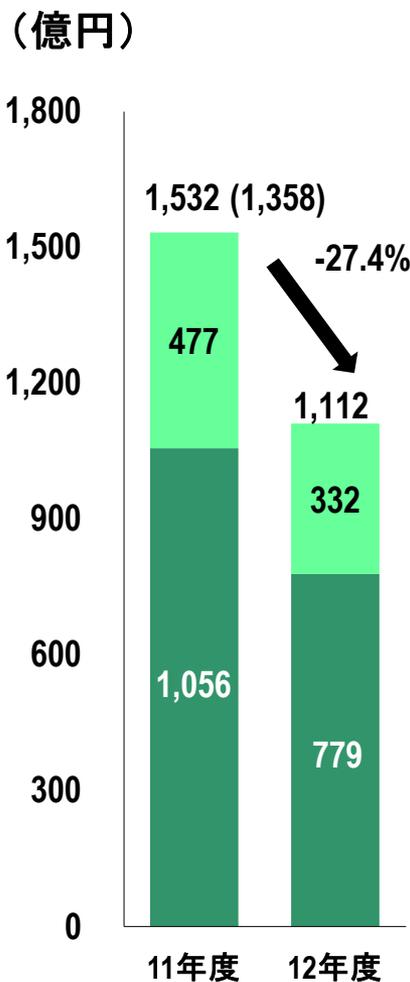
(2) セグメント別 売上高・営業利益比較(対 前年同期)

(億円)	売上高				営業利益			
	11年度	12年度	差異	増減率	11年度	12年度	差異	増減率
高機能繊維・複合材料	1,532	1,112	-421	-27.4%	72	-47	-119	—
電子材料・化成品	2,154	1,755	-398	-18.5%	37	-19	-57	—
ヘルスケア	1,430	1,383	-47	-3.3%	259	248	-11	-4.3%
製品	2,627	2,372	-256	-9.7%	66	47	-19	-28.8%
計	7,743	6,622	-1,121	-14.5%	434	229	-205	-47.3%
その他	801	835	+34	+4.3%	37	42	+5	+13.2%
消去又は全社	—	—	—	—	-131	-148	-16	—
合計	8,544	7,457	-1,087	-12.7%	340	124	-217	-63.7%
決算期統一影響	633	—	—	—	-13	—	—	—
12ヶ月累計	7,910	7,457	-453	-5.7%	353	124	-229	-65.0%

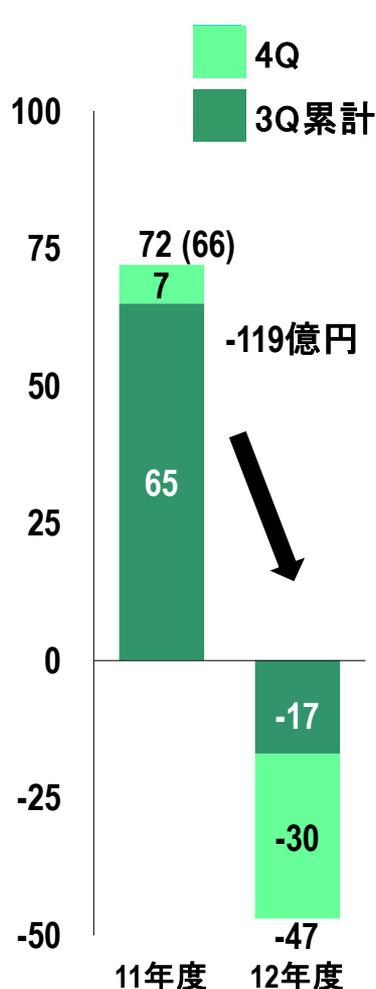
* 2011年度の数値を会社組織改革後の報告セグメントの区分に組み替えて表示しています

①高機能繊維・複合材料事業

売上高



営業利益



(億円)	11年度	12年度	差異	増減率
売上高	1,532	1,112	-421	-27.4%
営業利益	72	-47	-119	-

◆事業概況

◇高機能繊維:

パラアラミド繊維:

- ・防弾・防護用途は低調に推移
- ・自動車関連用途需要も調整局面が継続

メタアラミド繊維:

- ・国内防護用途は堅調
- 海外向けはアジア勢攻勢により競合激化

ポリエステル繊維(産業資材)

- ・欧州向け輸出低迷、土木建築資材用途は堅調

◇炭素繊維・複合材料:

- ・航空機用途の好調継続
- ・北米で圧力容器用途の需要拡大
- ・その他一般産業、スポーツ・レジャー用途は需要軟調も、価格は下げ止まりの兆候
- ・熱可塑性CFRPの早期事業化を目指し開発を加速

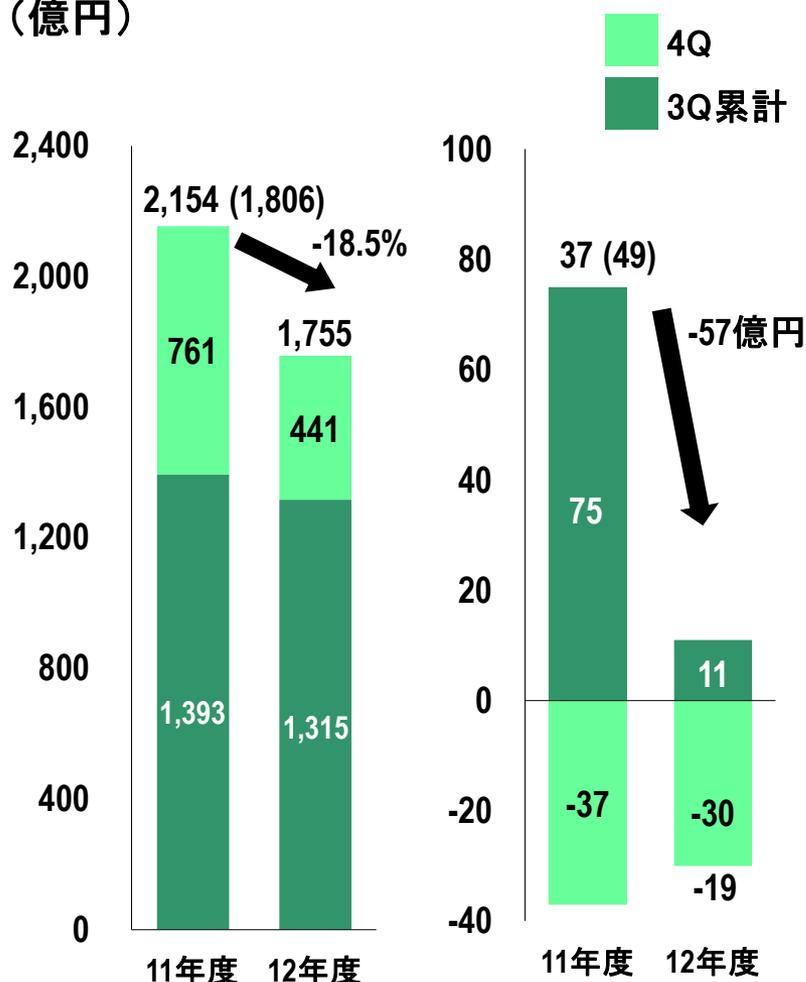
* ()内 決算期統一影響除き

②電子材料・化成品事業

売上高

営業利益

(億円)



(億円)	11年度	12年度	差異	増減率
売上高	2,154	1,755	-398	-18.5%
営業利益	37	-19	-57	-

◆事業概況

◇樹脂:

- ・中国でのPC新增設による需給悪化、日系電気・電子メーカー不振、原料価格高止まりを背景として苦戦
- ・アジアにおける汎用用途増販による稼働率確保、採算是正に注力
- ・スマホ・タブレット端末、ゲーム機向けの透明導電性フィルム及びカメラレンズ向け特殊PC好調

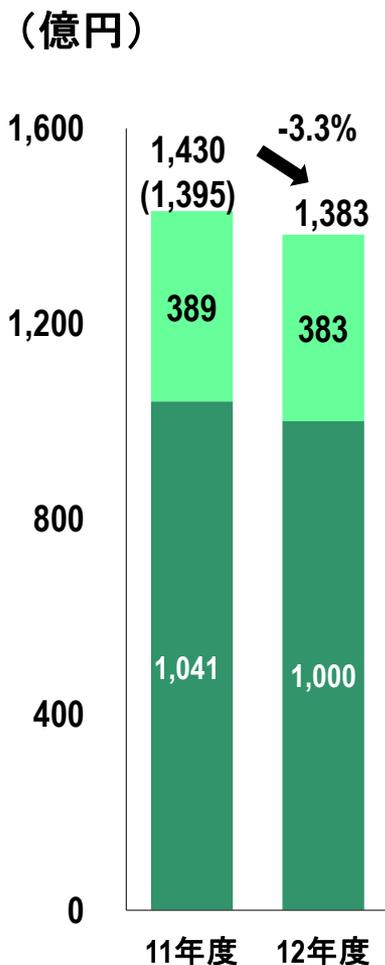
◇フィルム:

- ・液晶TV関連等の主力用途で価格競争激化
スマホ・タブレット端末向け堅調
- ・コストダウンの強化
- ・新製品の開発、新規需要の開拓を推進

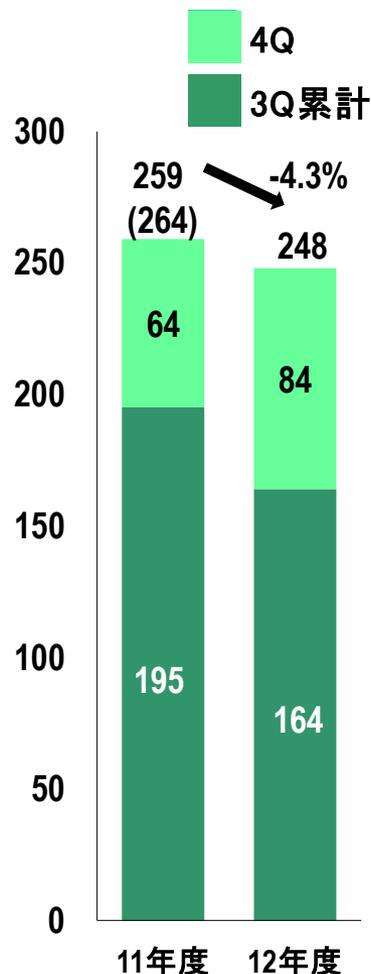
* ()内 決算期統一影響除き

③ヘルスケア事業

売上高



営業利益



(億円)	11年度	12年度	差異	増減率
売上高	1,430	1,383	-47	-3.3%
営業利益	259	248	-11	-4.3%

◆事業概況

◇医薬品:

- ・痛風・高尿酸血症治療剤「フェブキソスタット」
国内・海外とも順調に販売拡大
販売国数拡大に向けた取り組みに注力
- ・骨粗鬆症治療剤
他社新薬(後発品含む)の伸長により厳しい
競合環境が継続

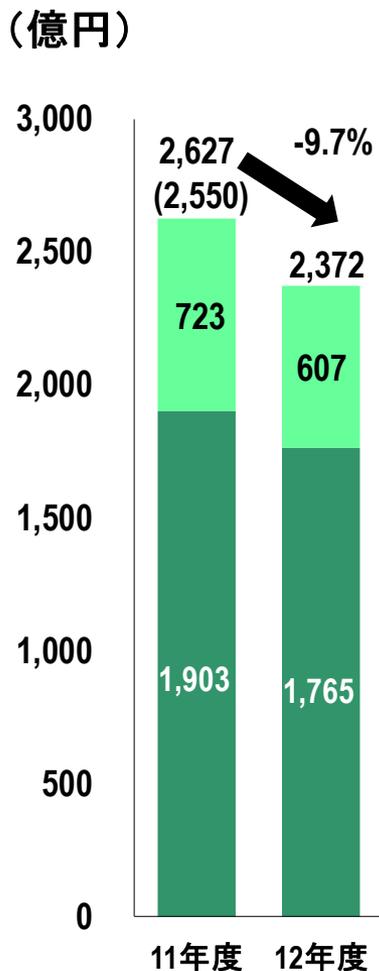
◇在宅医療:

- ・HOT : 高水準のレンタル台数を維持
新機種 of 投入効果発現
- ・CPAP : レンタル台数伸長継続
携帯電話網の活用によるモニタリング機能を搭載した「ネムリンク」を投入
- ・海外在宅医療事業 : 事業運営の効率化と
収益基盤の強化に注力

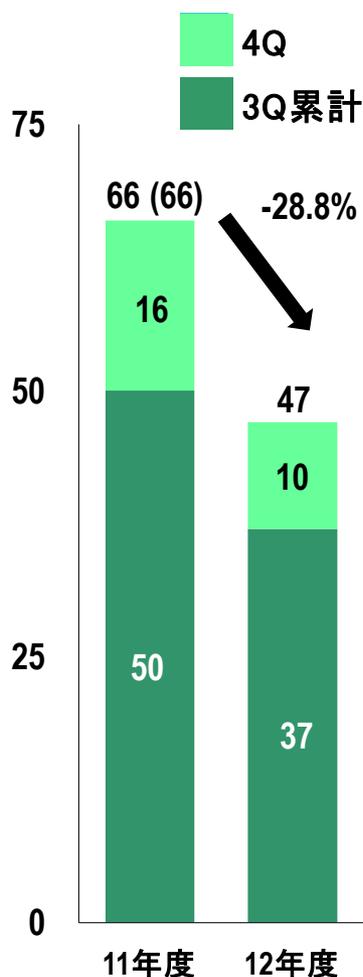
* ()内 決算期統一影響除き

④製品事業

売上高



営業利益



(億円)	11年度	12年度	差異	増減率
売上高	2,627	2,372	-256	-9.7%
営業利益	66	47	-19	-28.8%

◆事業概況

◇製品：

2012年10月帝人フロンティア(株)発足

衣料製品：

- ・メンズ、スポーツ衣料は販売好調、カジュアル衣料は不採算商権撤収等により減収

繊維素材：

- ・主要分野における顧客の在庫調整影響によりテキスタイル販売は減収ながら、スポーツ用途のグローバル展開が進展
- ・ファッション用途原糸は市況悪化により低迷
- ・インテリア向け差別化原糸販売は伸長

産業資材：

- ・自動車関連、農水産土木資材の販売堅調
- ・エレクトロニクス関連の化成品は出荷低調

* ()内 決算期統一影響除き

◆セグメント別 売上高・営業利益推移(前年対比)

(億円)		11年度実績					12年度実績			差異 (12ヶ月 ベース)
		上期	下期	計	決算期 統一	年間	上期	下期	年間	
売上高	高機能繊維・複合材料	716	642	1,358	174	1,532	528	584	1,112	-246
	電子材料・化成品	930	877	1,806	347	2,154	884	871	1,755	-51
	ヘルスケア	680	715	1,395	35	1,430	643	740	1,383	-12
	製品	1,235	1,315	2,550	77	2,627	1,157	1,215	2,372	-179
	計	3,560	3,549	7,110	633	7,743	3,211	3,411	6,622	-488
	その他	375	425	801	0	801	371	464	835	+34
	合計	3,936	3,975	7,910	633	8,544	3,583	3,875	7,457	-453
営業利益	高機能繊維・複合材料	52	13	66	6	72	3	-50	-47	-113
	電子材料・化成品	57	-8	49	-12	37	15	-34	-19	-69
	ヘルスケア	119	145	264	-5	259	93	155	248	-16
	製品	30	36	66	-0	66	22	26	47	-19
	計	259	186	445	-11	434	132	97	229	-216
	その他	13	24	37	0	37	6	37	42	+5
	消去又は全社	-66	-64	-130	-2	-131	-64	-84	-148	-18
合計	207	146	353	-13	340	74	50	124	-229	

(注)2012年3月期の数値を会社組織改革後の報告セグメントの区分に組み替えて表示しています。

◆セグメント別 売上高・営業利益推移(前回見通し対比)

(億円)		前回見通し*			12年度実績			年間 差異
		上期	下期	年間	上期	下期	年間	
売上高	高機能繊維・複合材料	528	572	1,100	528	584	1,112	+12
	電子材料・化成品	884	816	1,700	884	871	1,755	+55
	ヘルスケア	643	757	1,400	643	740	1,383	-17
	製品	1,157	1,243	2,400	1,157	1,215	2,372	-28
	計	3,211	3,389	6,600	3,211	3,411	6,622	+22
	その他	371	429	800	371	464	835	+35
合計		3,583	3,817	7,400	3,583	3,875	7,457	+57
営業利益	高機能繊維・複合材料	3	-48	-45	3	-50	-47	-2
	電子材料・化成品	15	-20	-5	15	-34	-19	-14
	ヘルスケア	93	157	250	93	155	248	-2
	製品	22	28	50	22	26	47	-3
	計	132	118	250	132	97	229	-21
	その他	6	34	40	6	37	42	+2
	消去又は全社	-64	-86	-150	-64	-84	-148	+2
合計		74	66	140	74	50	124	-16

*前回見通しは2013年2月4日に公表

2014年3月期 通期業績見通し

(1) 環境認識

IMFデータ (2013年 4月公表)

GDP 成長率 (%)	2009	2010	2011	2012	2013	2014
グローバル	▲0.7	5.1	4.0	3.2	3.3	4.0
先進国	▲3.7	3.0	1.6	1.2	1.2	2.2
新興国	2.8	7.4	6.4	5.1	5.3	5.7

今後グローバルで景気の緩やかな持ち直しが見込まれるものの、牽引役の米国・中国も力不足、欧州はマイナス成長、なお多くのリスク要因を孕む

【日本】 金融緩和による景気浮揚策

消費税導入前の駆け込み需要 ⇒ 個人消費の増加期待

【米国】 シェールガス革命進展 ⇒ 圧力容器用途(炭素繊維)

歳出削減・防衛予算の抑制継続 ⇒ 防弾用途(アラミド繊維)

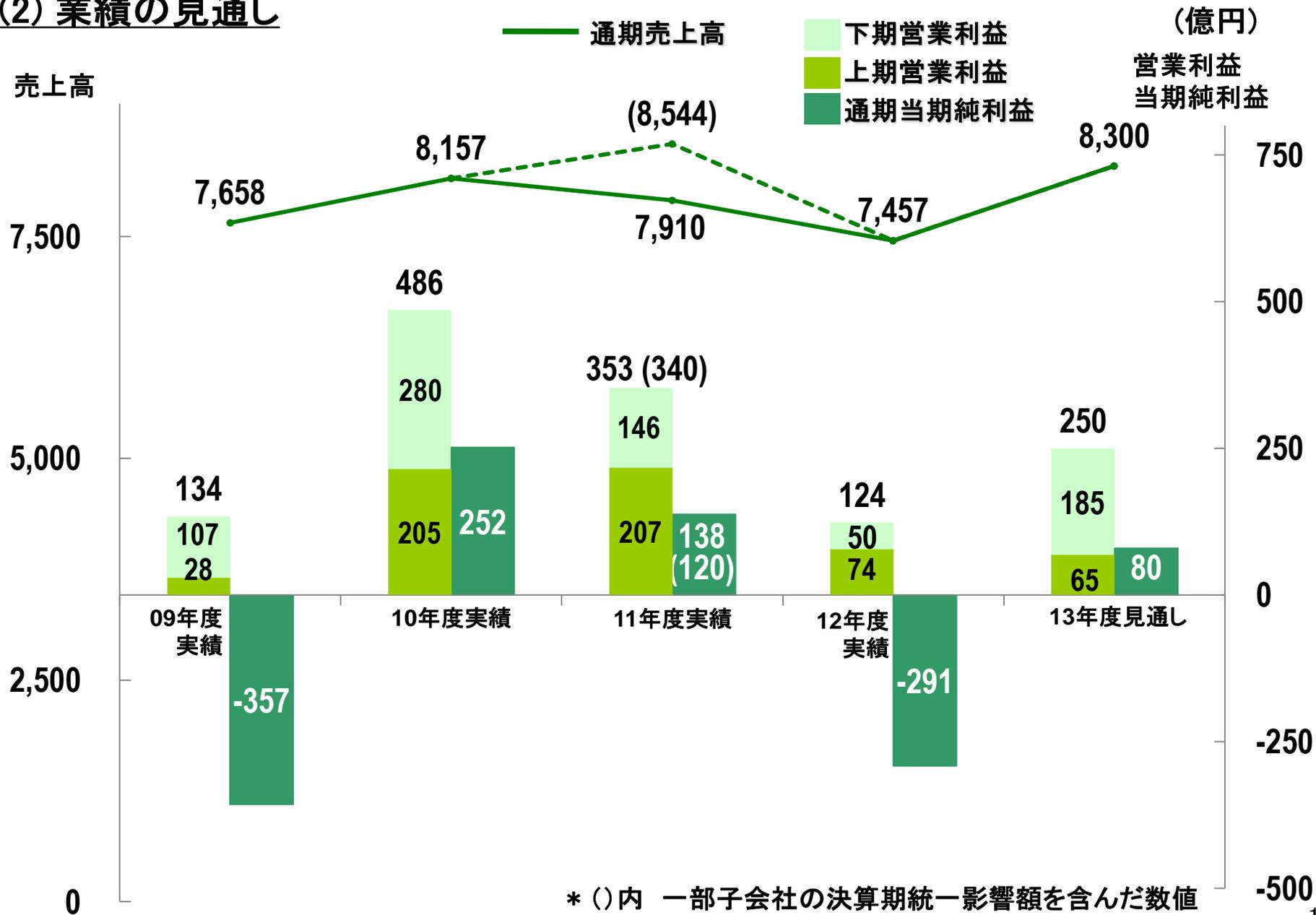
【欧州】 実態経済低迷 ⇒ 自動車用途等の欧州域内向け販売

【中国】 成長力レベルに陰り ⇒ 電気・電子用途(化成品)

当面はグローバル経済全体として 低成長レベルが継続

⇒ 外部環境に依存しない自助努力による収益基盤の建て直しが急務

(2) 業績の見通し



(3) 通期業績見通しの概況

(億円)	12年度 実績	13年度 見通し	差異	
			金額	%
売上高	7,457	8,300	+843	+11.3%
営業利益	124	250	+126	+102.3%
<営業利益率>	1.7%	3.0%	—	+1.4%
経常利益	98	230	+132	+135.0%
当期純利益	-291	80	+371	—

EBITDA *1	592	700	+108
設備投資*2	363	400	+37
減価償却費	469	450	-19
研究開発費	332	340	+8
FCF	264	-100	-364

2012年度実績及び2013年度配当予想

(円/株)	12年度 実績	13年度 見通し	差異
中間配当	2.0	2.0	—
期末配当	2.0	2.0	—
年間配当	4.0	4.0	—

(億円)	13年 3月末	14年 3月末	差異
総資産	7,624	7,650	+26
(在庫)	(1,116)	(1,100)	-16
有利子負債	2,708	2,750	+42

*1: EBITDA (営業利益+減価償却費)にて算出

*2: 設備投資には無形固定資産を含む

■2013年度見通し前提

通期為替レート 米ドル = 95円
ユーロ = 125円

原油価格(Dubai) = 110米ドル/バレル

◆セグメント別 売上高・営業利益推移

(億円)		12年度実績			13年度見通し			年間 差異
		上期	下期	年間	上期	下期	年間	
売上高	高機能繊維・複合材料	528	584	1,112	550	650	1,200	+88
	電子材料・化成品	884	871	1,755	1,000	1,000	2,000	+245
	ヘルスケア	643	740	1,383	700	750	1,450	+67
	製品	1,157	1,215	2,372	1,250	1,350	2,600	+228
	計	3,211	3,411	6,622	3,500	3,750	7,250	+628
	その他	371	464	835	500	550	1,050	+215
	合計	3,583	3,875	7,457	4,000	4,300	8,300	+843
営業利益	高機能繊維・複合材料	3	-50	-47	10	25	35	+82
	電子材料・化成品	15	-34	-19	-5	15	10	+29
	ヘルスケア	93	155	248	95	155	250	+2
	製品	22	26	47	20	30	50	+3
	計	132	97	229	120	225	345	+116
	その他	6	37	42	10	30	40	-2
	消去又は全社	-64	-84	-148	-65	-70	-135	+13
合計	74	50	124	65	185	250	+126	

(4) 主要事業の環境認識とアクション

事業		環境認識	アクション
高機能繊維・複合材料	共通	<ul style="list-style-type: none"> 一部用途を除き需要横這い 価格競争激化 	<ul style="list-style-type: none"> 生産体制の合理化と固定費削減 アジア・新興国市場の開拓
	アラミド繊維	<ul style="list-style-type: none"> 欧米の予算削減による防弾用途需要減 欧州自動車向け需要の低迷 	<ul style="list-style-type: none"> 防弾用途の新興国向け拡販 中国の技術サービス拠点活用による新規用途開発の推進
	炭素繊維・複合材料	<ul style="list-style-type: none"> 航空機向け、圧力容器向けは好調維持 一般産業向け、スポーツ・レジャー向けの販売価格は低位継続 	<ul style="list-style-type: none"> 航空機・圧力容器向けの拡販 インド、東南アジアでの用途開発推進 自動車向け熱可塑性CFRPの開発推進
電子材料・化成品	樹脂	<ul style="list-style-type: none"> 需給バランスの大きな改善なし 採算性の改善は限定的 スマホ・タブレット端末向け需要は続伸 	<ul style="list-style-type: none"> 新機能材料の投入、LED照明等新用途の開発推進 欧米・アジア地域の新規顧客・用途開拓による販売拡大 スマホ・タブレット端末向け販売拡大（透明導電性フィルム、レンズ用特殊PC） 生産体制の合理化と固定費削減
	フィルム	<ul style="list-style-type: none"> 液晶TV関連市場の成長が減速 太陽電池向けはアジアで堅調も価格下落 	
ヘルスケア	医薬品	<ul style="list-style-type: none"> 痛風・高尿酸血症市場の活性化 骨粗鬆症市場における更なる競合激化 	<ul style="list-style-type: none"> フェブリクの国内拡販と販売国拡大 ボナロン新剤形投入によるシェア維持
	在宅医療	<ul style="list-style-type: none"> 国内市場における競争激化 米国の制度改革による医療費抑制 	<ul style="list-style-type: none"> モニタリングシステム活用による拡大 米国の営業所統廃合による運営効率化

(5) 事業構造改革

生産体制の再編・スタッフの効率化等、事業構造の見直しを通じて短中期的な収益基盤の建て直しを早急に進める

(億円)

事業	内容	効果額		特別損失
		2013年	フル発現	
高機能繊維 ・複合材料	・生産体制再編と固定費削減	20	35	軽微
電子材料・ 化成品	・生産体制再編と固定費削減	5	10	数億円
在宅医療	・米国の営業所統廃合 (既存の商圈は維持)	10	15	数億円
本社スタッフ	・グループ機構改革(組織統合、 配置転換で120人を削減)	15	20	なし
合 計		50	80	

300人以上
の削減

更に踏み込んだ生産体制の見直しについても検討を進める

(6) コストダウンの推進

中長期経営ビジョンで想定していたコストダウンの推進を加速

更にあらゆる角度からの費用見直しを図り、当初想定以上の効果の発現を目指す

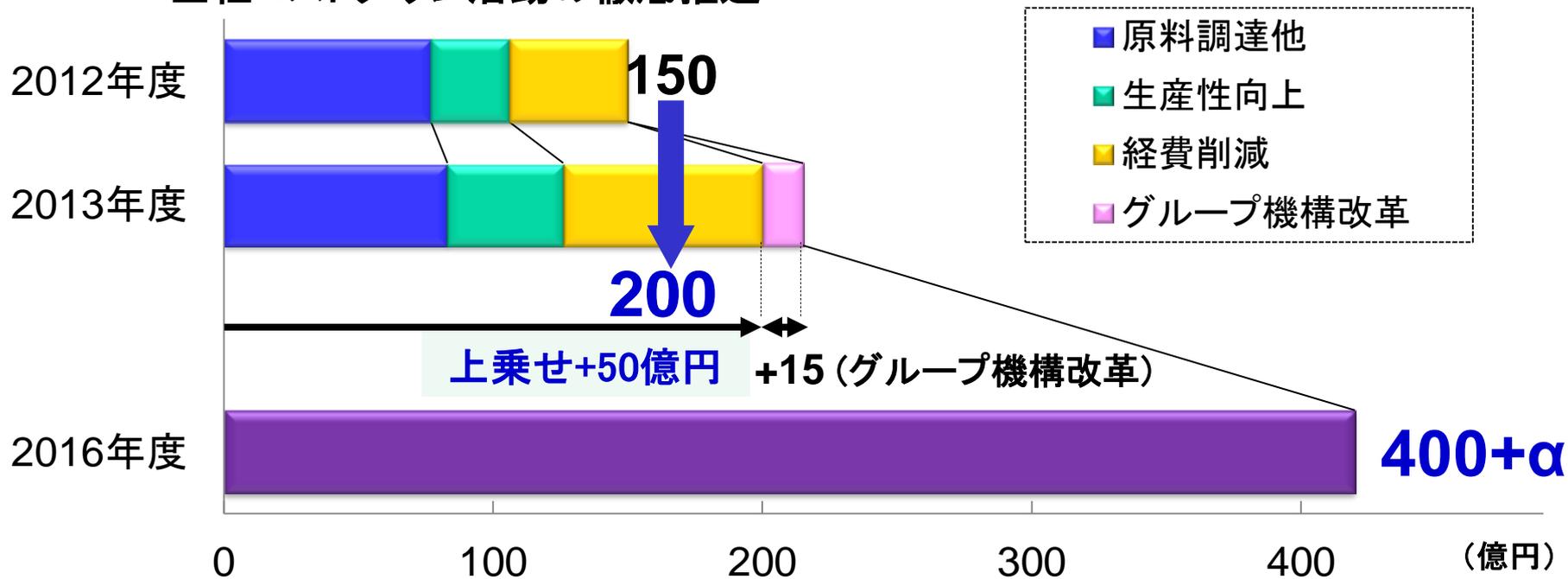
➤ 2012年度：150億円のコストダウン達成(2011年度対比)

原料調達先の多様化、生産性の向上、経費削減等

➤ 2013年度：更なるコストダウンの上乗せを目指す

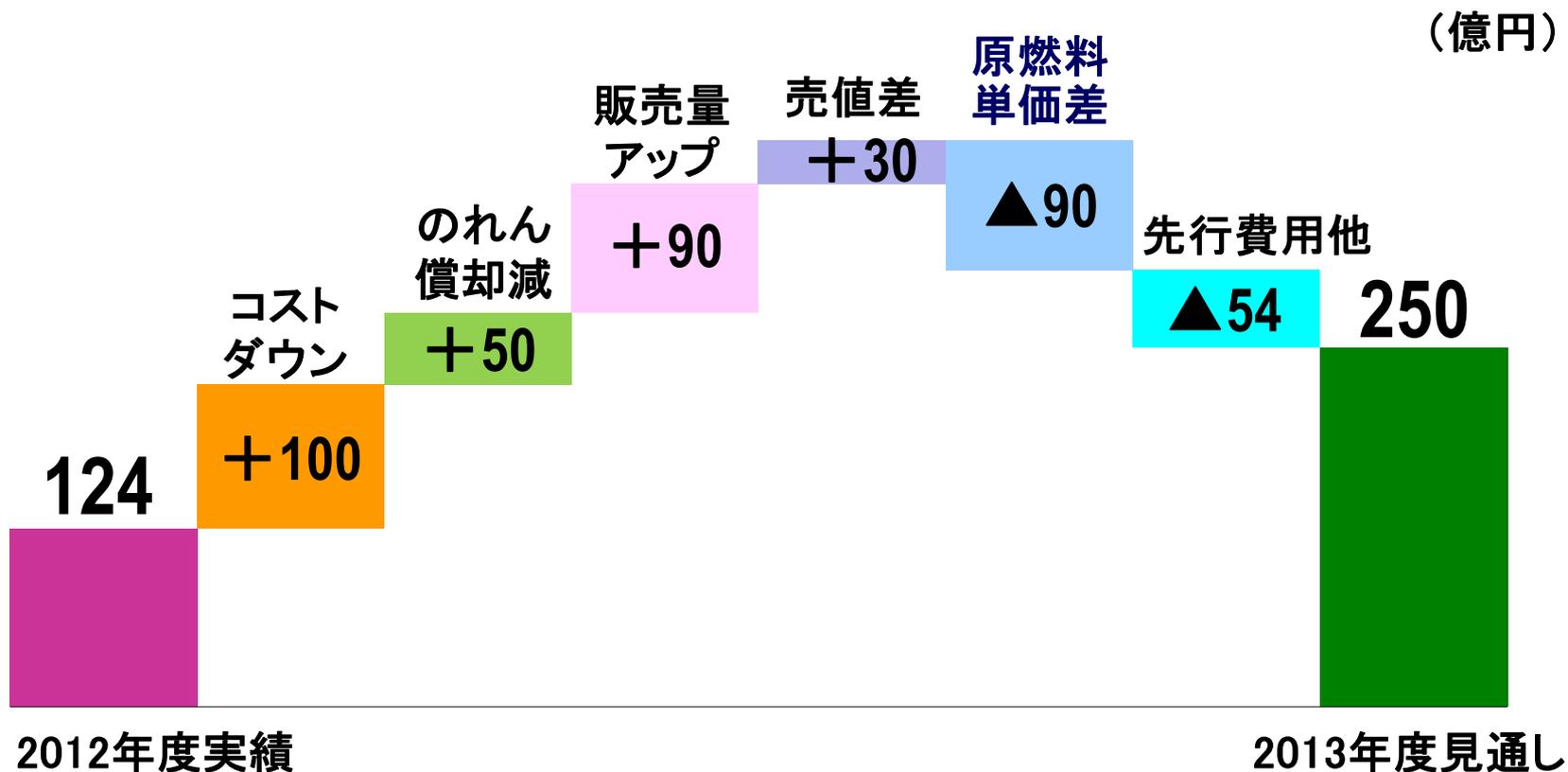
・グループ機構改革(組織のスリム化・業務の効率化)

・全社コストダウン活動の徹底推進



(7) 2013年度営業利益見通し増減内訳

- 事業構造改革 + 徹底的なコストダウンによる、自律的な収益力回復を推進
- 重点拡大事業(ヘルスケア/炭素繊維等)への成長投資は継続
- アジア・新興国での拡販・用途開発に注力



◆ 重点プロジェクトの進捗

		2012年実績	2013年見通し	2014～
モビリティ	熱可塑性 CFRP	▲北米開発センター ▲パイロットプラント 自動車メーカーとの取り組み	米増設見極め >	
	環境・エネルギー	水処理 瀋陽プロジェクト参画	▲帝人(瀋陽) 中国への展開拡大 環保科技有限公司	
情報・エレクトロニクス	PETリサイクル	▲中国合弁設立	工場建設	▲操業開始
	LIBセパレータ	▲韓国生産拠点稼働	フル稼働 >	
	シリコンナノインク	半導体・太陽電池メーカーとの取り組み	技術認定取得 >	量産化へ
ライフプロテクション	スーパーエンブラ		▲PPS合弁設立 工場建設	2015年稼働
	パラアラミド繊維		▲上海テクニカルセンター稼働 ▲高機能PE設備増強	アジア増設検討
ヘルスケア	パイプライン拡充	▲KTP-001臨床試験開始 ▲ボナロン静注上市 ▲ボナロンゼリー上市		
	外部提携		▲キョーリン株式一部取得 提携関係の構築	
	新規医療機器	ポータブル機(HOT)▲	▲ウォークエイド上市	

(8) トピックス

■ 歩行神経筋電気刺激装置「ウォークエイド」上市

背景

- ・脳卒中(既往症患者:国内約300万人、新たな発症は年間約27万人)
 - ・多発性硬化症、脊髄損傷など
- ⇒ 後遺障害の中枢性麻痺により歩行困難となられる方多数

>一般的な歩行補助器具(短下肢装具)

: 装着時に足首を固定するため、自然な歩行が難しく、歩行時に身体的負担

施策・アクション

「ウォークエイド」 米Innovative Neurotronics社より導入
欧米で1万人以上の使用実績

機能的電気刺激療法

⇒ 下肢神経への電気刺激により麻痺した筋肉を収縮させ、
歩行補助・歩行能力改善につなげる

医療機関での治療用装置としてレンタル開始(2013年4月～)

⇒福祉施設や在宅治療へ展開を拡大



■ ポリエステル リサイクル事業の推進

背景

- ・中国の国家戦略/政府支援
第12次5ヶ年計画で「省エネ・環境保全事業」を振興
- ・中国の巨大な市場
ポリエステル繊維生産：年産2,600万トン
(世界の50%超)

施策・アクション

・技術／生産

浙江佳人新材料有限公司：2014年上期 本格生産開始

・販売／マーケティング

中国市場でのエコ素材の拡販

環境意識の啓蒙、「エコ」ブランド強化 ⇒ ユニフォーム(官公需)、エコチップ

日米欧市場への拡大展開

キャンペーン強化、ASEAN縫製活用 ⇒ スポーツ・アウトドア衣料、メンズスーツ、インテリア、ユニフォーム等

⇒中国を発信地とした高品質なケミカルリサイクル繊維製品による新たな市場形成へ



■ 中国での水処理ビジネス拡大

背景

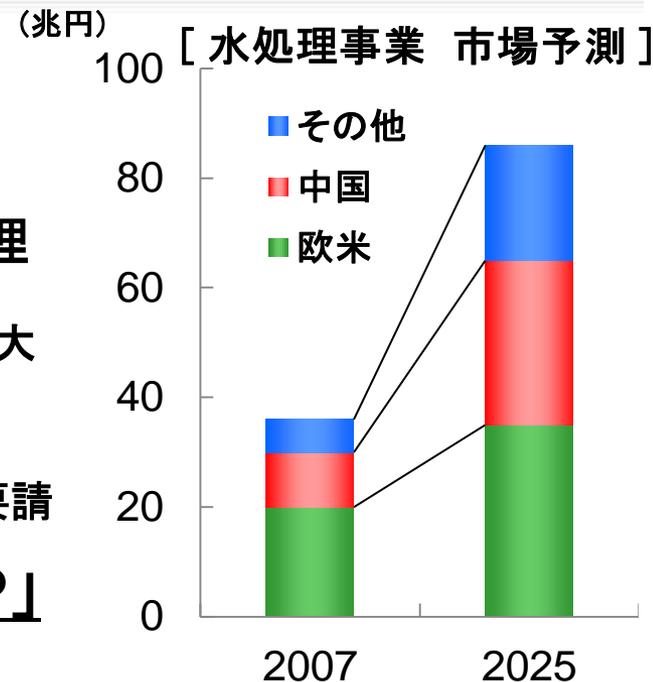
- ・帝人のターゲット領域：汚水（下水、工場廃水）処理
 - ・最大の成長市場は中国：排水処理ニーズは急激に拡大
下水処理場の中小都市・農村部への普及遅れ
工場廃水・汚泥処理の厳格化、高度処理（脱窒・脱磷）の要請
 - ・帝人の生物処理による排水処理装置「MSABP」
[特徴]・初期投資削減（短工期、管路工事費用削減）
・運転費用削減（汚泥削減、省メンテナンス）
- ⇒中小規模処理場の拡大に大きなビジネスチャンス

施策・アクション

帝人（瀋陽）環保科技有限公司 設立

2012年既に瀋陽市での水処理プロジェクトに参画
汚水処理場の運転開始

瀋陽でのビジネスを横展開、現地企業とのアライアンス等を通じ
中国東北3省などにおいて総合排水処理を拡大展開

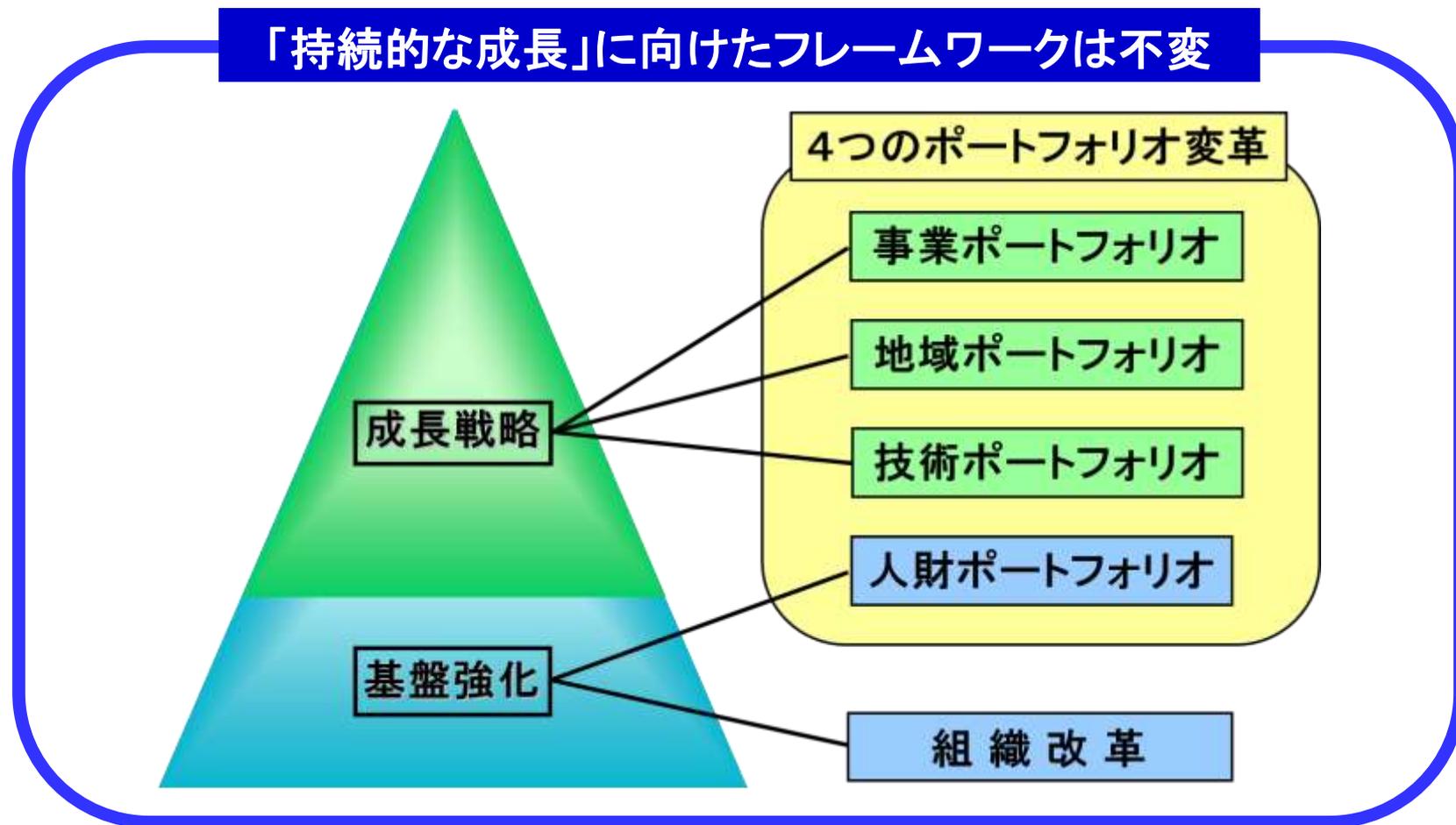


出展：Global water market 2008



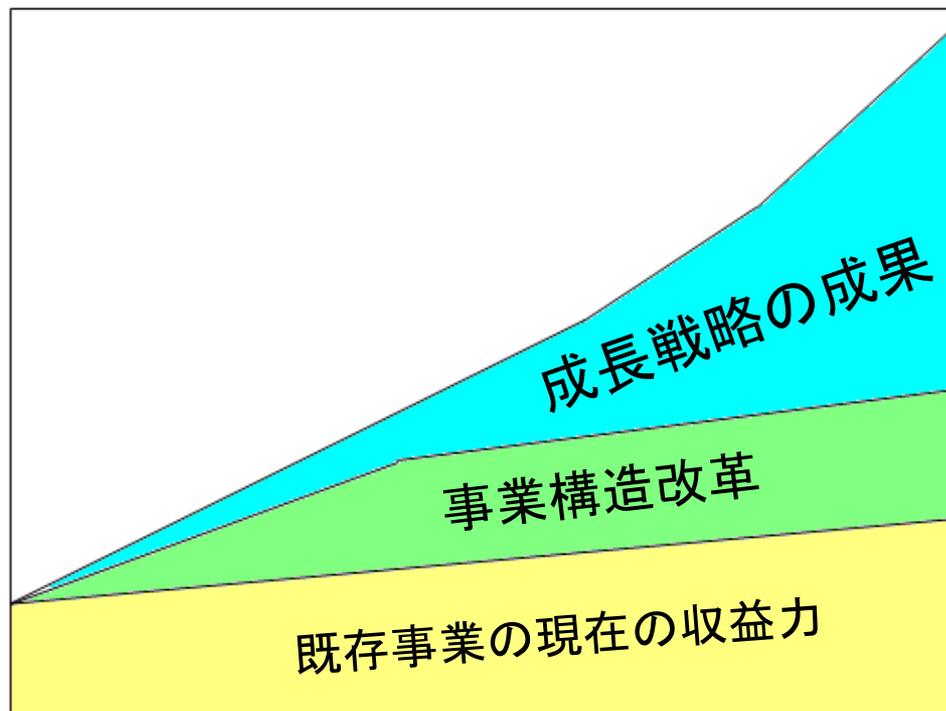
(9) 中期収益目標の再設定

「持続的な成長」に向けたフレームワークは不変



経営環境(市場動向、競合環境等)の変化により、収益基盤の立て直しが喫緊の課題

【中長期の成長イメージ】



2012年

2016年

2020年近傍

- 重点戦略事業の拡大
- アジア・新興国の開拓
- ダウンストリーム展開・新規事業

- 生産体制の再編(素材事業)

- グループ機構改革
- 全社コストダウン活動

【中期(2016年)収益目標の再設定】

中長期ビジョン策定後の経営環境の変化を踏まえ、短中期の収益改善策としての事業構造改革の効果と、成長戦略の進捗を反映し、2013年上期中に公表する。

(10) 主要経営指標

	09年度 実績	10年度 実績	11年度 実績	12年度 実績	13年度 見通し
ROA：営業利益／総資産	1.6%	6.1%	4.5%	1.6%	3.4%
ROE：当期利益／自己資本*1	-12.4%	9.1%	4.2%	-10.3%	3.2%
売上高営業利益率	1.8%	6.0%	4.0%	1.7%	3.0%
D/Eレシオ*2	1.18	0.94	0.89	1.00	1.1
自己資本比率	33.0%	37.3%	38.3%	35.6%	35%
1株当たり当期純利益(円)	-36.3	25.6	12.2	-29.6	8.1
1株当たり配当金(円)	2.0	5.0	6.0	4.0	4.0
総資産(億円)	8,231	7,615	7,621	7,624	7,650
有利子負債(億円)	3,203	2,674	2,610	2,708	2,750
EBITDA(億円)*3	753	1,050	863	592	700

*1 「当期純利益÷自己資本」にて算出

*2 「有利子負債÷自己資本」にて算出

*3 「営業利益+減価償却費」にて算出

見通しに関する注意事項と事業等のリスク

見通しに関するご注意

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。

事業等のリスク

業績等に影響を与える可能性のある重要な要因には、以下の事項があります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。

① 競合・市況変動にかかるとの

帝人グループは市況製品を展開しており、景気動向、他社との競合に伴う市場価格の変動、購入原燃料の価格変動、また為替、金利といった相場の変動により事業業績が大きく左右されることがあります。

② 製品の品質にかかるとの

ヘルスケア事業においては、生命関連商品を取り扱っているため、製品の欠陥により、業績、財務状況、社会的評価等に悪影響を及ぼす可能性があります。

③ 医薬品の研究開発にかかるとの

医療用医薬品の開発には、多額の費用と長い期間がかかるうえ、創薬研究において、有用な化合物を発見できる可能性は決して高くありません。また、種々の要因により承認申請を断念しなければならない可能性があります。また、承認申請した後でも承認が取り消されることがあります。

④ 海外活動にかかるとの

海外での活動について為替変動に係るリスクのほか、予期しない法律・規制の施行、不利な影響を及ぼす租税制度の変更、経済変動、政変・テロ・戦争等による社会的混乱により、経営成績及び財務状況等に悪影響を及ぼす可能性があります。

⑤ 事故・災害にかかるとの

大規模な自然災害や不慮の事故等により生産設備が損害を受けた場合や原材料の供給等サプライチェーンに大きな障害が生じた場合は、帝人グループの経営成績及び財務状況等に悪影響を及ぼす可能性があります。

本資料は、2013年5月9日午前11時30分に公表した弊社決算発表に基づくものです。
本資料に記載された製品名等は登録商標です。

◆セグメント別 四半期売上高・営業利益推移

(億円)		11年度実績						12年度実績				
		1Q	2Q	3Q	4Q	決算期 統一	年間	1Q	2Q	3Q	4Q	年間
売上高	高機能繊維・複合材料	355	361	341	302	174	1,532	261	266	252	332	1,112
	電子材料・化成品	469	461	463	414	347	2,154	437	447	430	441	1,755
	ヘルスケア	349	331	361	354	35	1,430	312	331	357	383	1,383
	製品	560	675	668	647	77	2,627	549	608	609	607	2,372
	計	1,733	1,828	1,833	1,716	633	7,743	1,560	1,652	1,648	1,762	6,622
	その他	163	212	186	239	0	801	184	187	200	264	835
合計		1,896	2,040	2,019	1,956	633	8,544	1,743	1,839	1,848	2,026	7,457
営業利益	高機能繊維・複合材料	24	29	13	1	6	72	-3	6	-20	-30	-47
	電子材料・化成品	32	26	17	-25	-12	37	16	-1	-4	-30	-19
	ヘルスケア	72	47	76	69	-5	259	38	55	71	84	248
	製品	11	19	20	16	-0	66	7	14	15	10	47
	計	138	121	126	61	-11	434	58	74	62	35	229
	その他	3	11	3	21	0	37	4	2	8	29	42
	消去又は全社	-31	-35	-31	-33	-2	-131	-32	-32	-43	-41	-148
合計		110	96	97	49	-13	340	30	44	28	22	124

(注)2011年度の数値を会社組織改革後の報告セグメントの区分に組み替えて表示しています。

◆ 連結貸借対照表

(億円)	11年 6月末	11年 9月末	11年 12月末	12年 3月末	12年 6月末	12年 9月末	12年 12月末	13年 3月末
資産 合計	7,820	7,845	7,758	7,621	7,397	7,318	7,800	7,624
流動資産	3,583	3,694	3,756	3,618	3,521	3,507	3,734	3,723
固定資産	4,238	4,151	4,002	4,003	3,877	3,810	4,066	3,901
負債・純資産 合計	7,820	7,845	7,758	7,621	7,397	7,318	7,800	7,624
負債	4,683	4,742	4,697	4,499	4,402	4,330	4,654	4,703
(内 有利子負債)	2,846	2,880	2,850	2,610	2,547	2,523	2,749	2,708
純資産	3,138	3,103	3,060	3,122	2,995	2,988	3,145	2,921

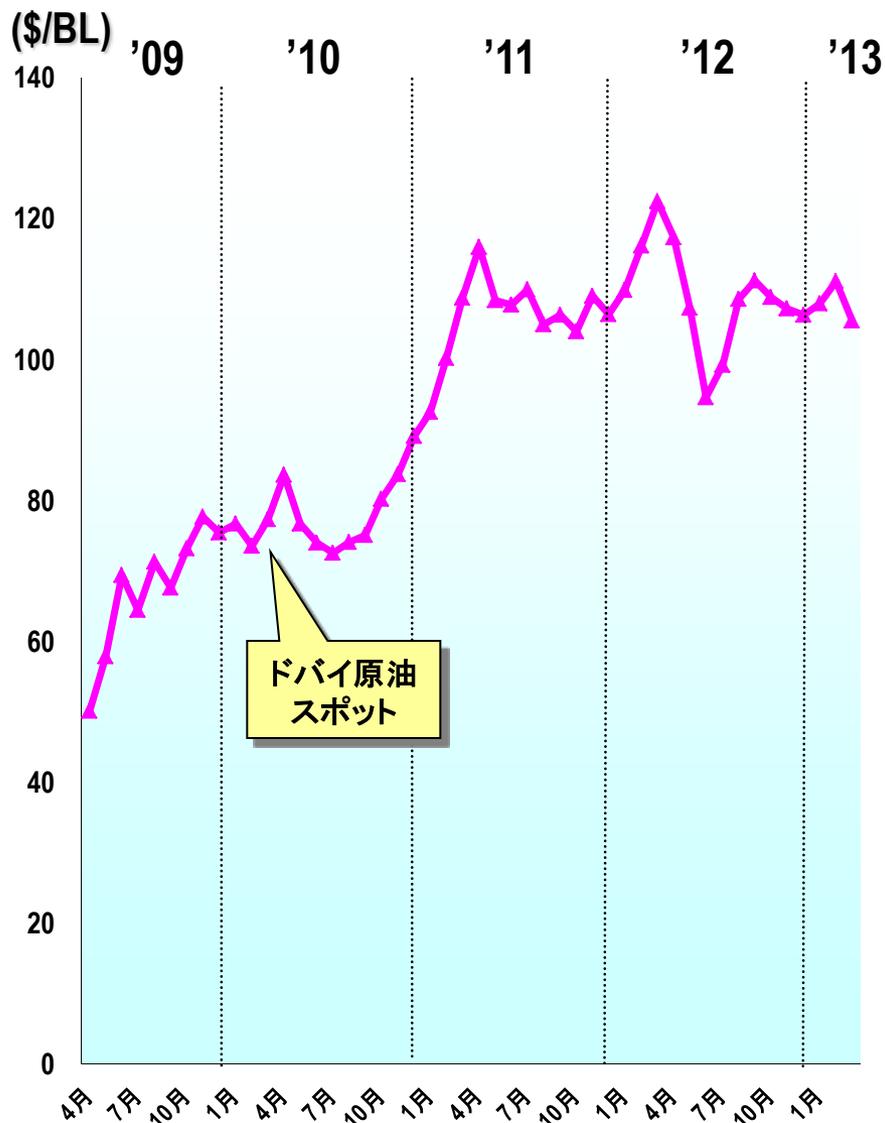
* 詳細については決算短信をご覧ください

◆ 連結損益計算書

(億円)	11年度				12年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	1,896	2,040	2,019	2,589	1,743	1,839	1,848	2,026
売上原価	1,339	1,479	1,478	1,996	1,275	1,357	1,382	1,538
売上総利益	557	561	541	593	468	483	466	488
販管費	447	465	444	557	439	439	438	466
営業利益	110	96	97	37	30	44	28	22
営業外損益	18	-8	2	-9	-8	-17	8	-9
(内 金融収支)	-4	-9	-7	-15	-3	-7	-5	-5
(内 持分法投資損益)	26	13	8	6	4	1	1	-0
経常利益	128	89	99	27	22	27	36	13
特別損益	-1	-19	-18	-27	-25	16	-8	-303
税前利益	127	70	81	0	-3	43	28	-290
法人税等	59	35	22	32	16	30	9	6
少数株主損益	5	6	-0	-0	-2	2	5	4
四半期純利益	63	29	59	-31	-16	10	15	-300

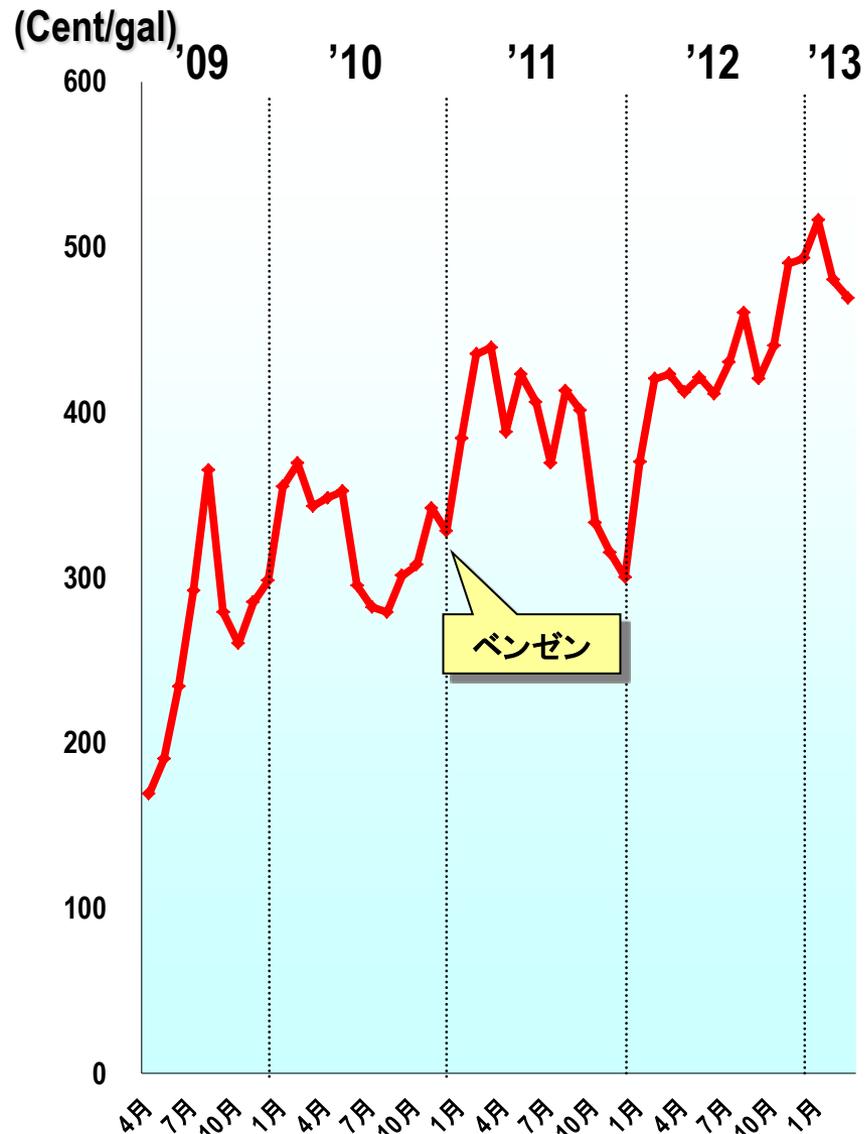
* 詳細については決算短信をご覧ください

◆ドバイ原油価格推移



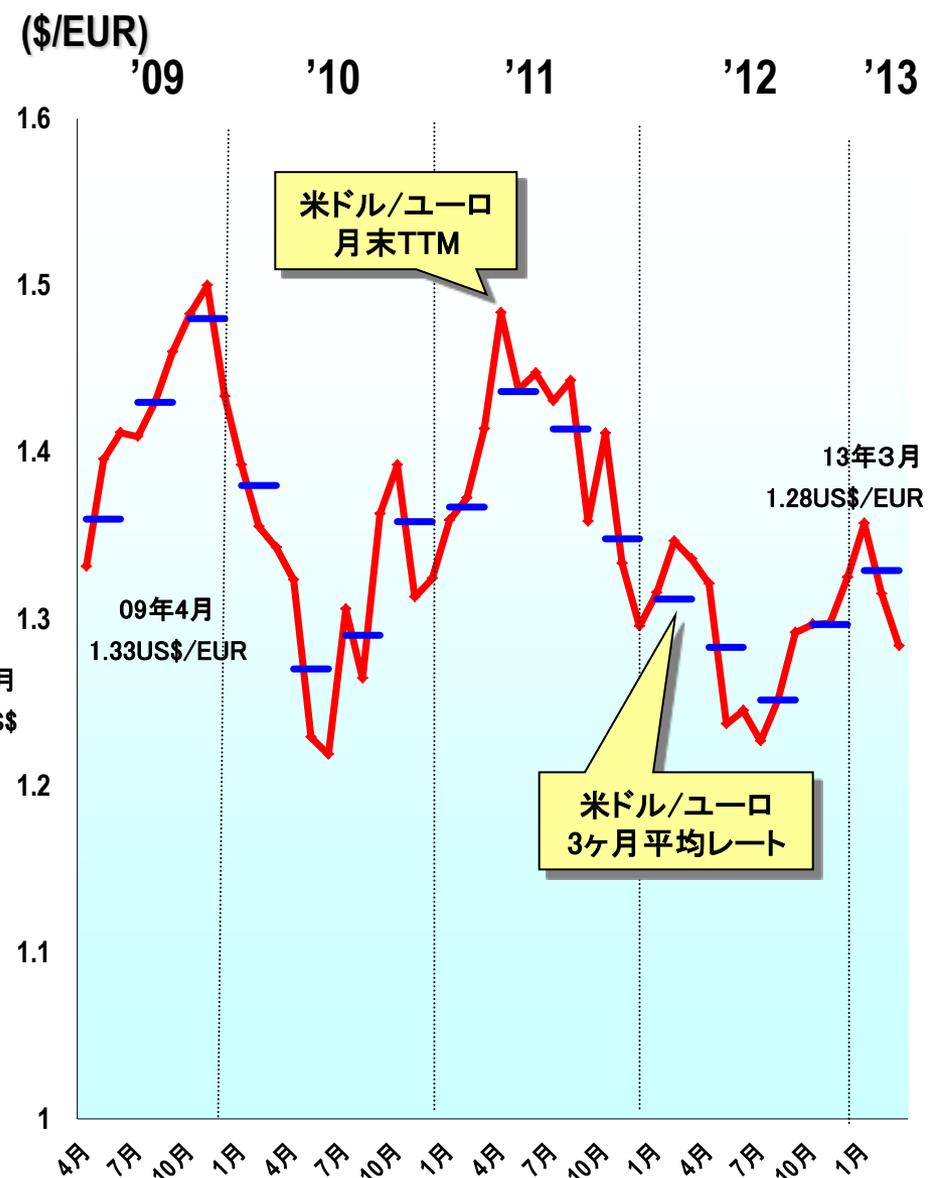
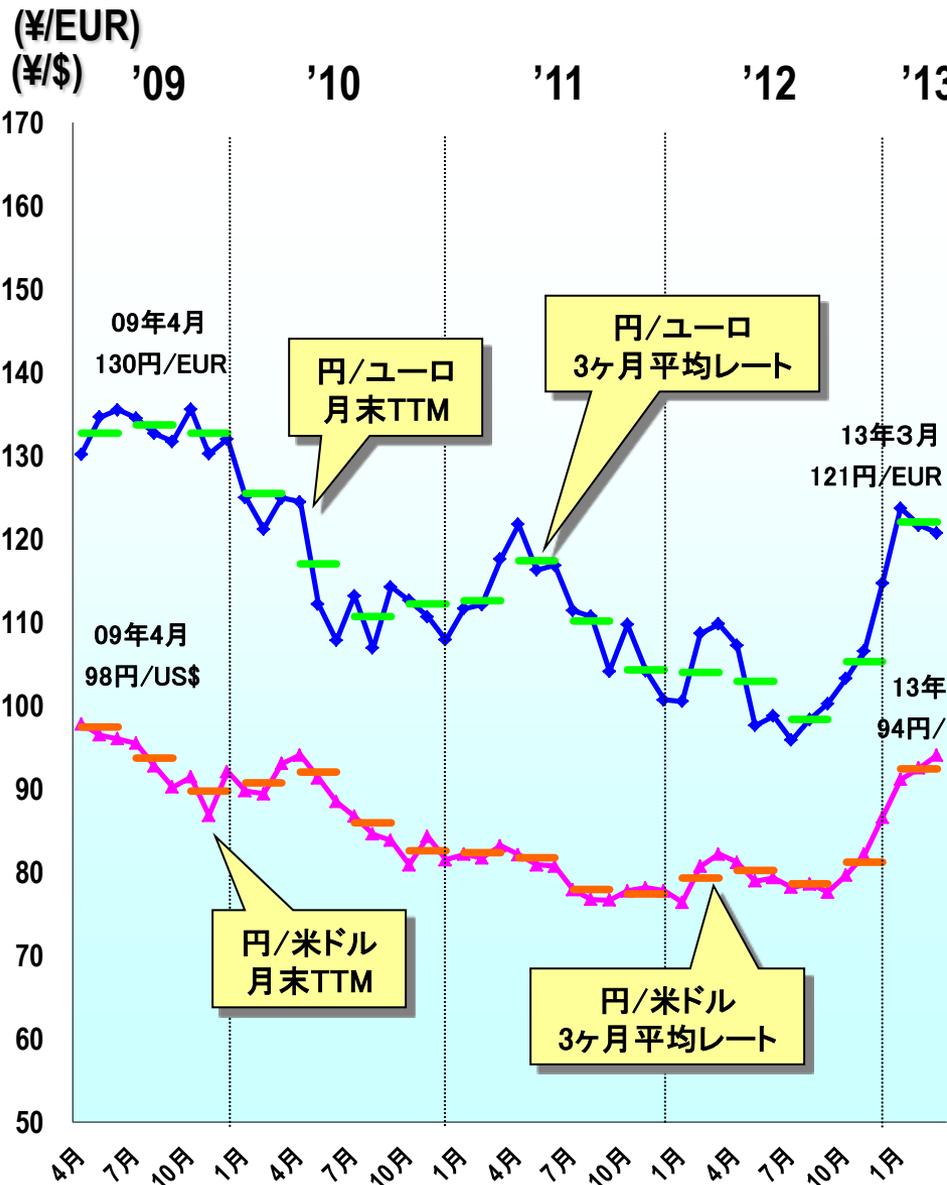
【出所:Platt's社のDATAを基に弊社推定】

◆ベンゼン価格推移



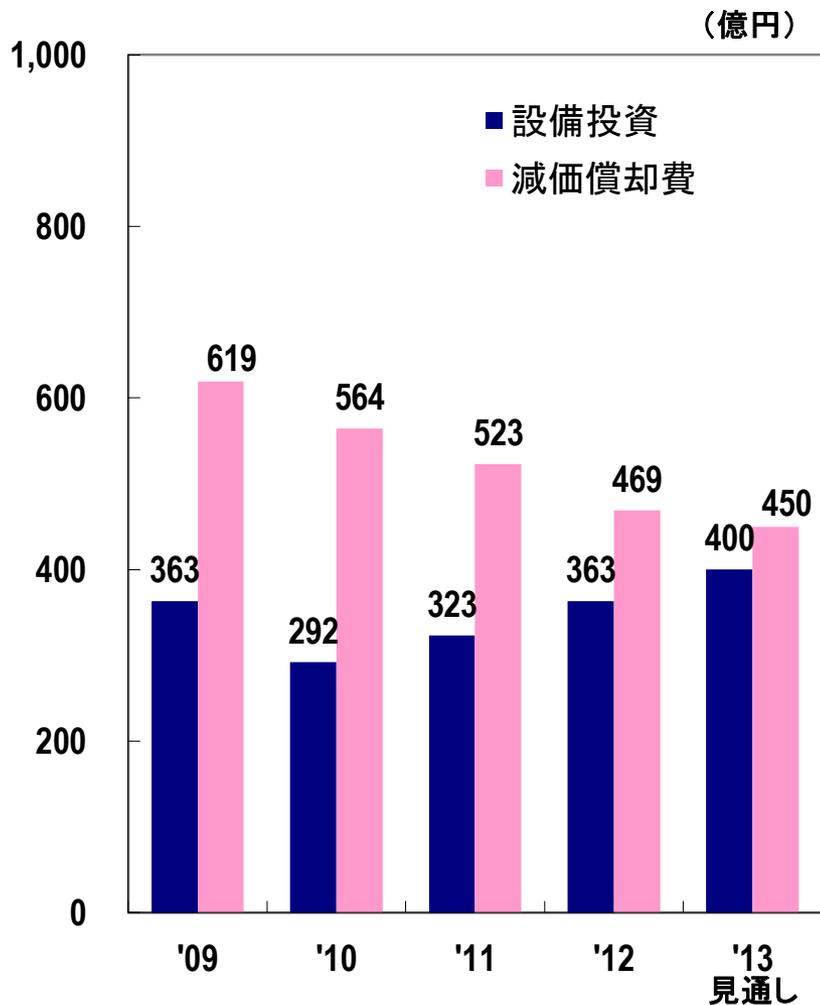
【出所:BZ DewittのDATAを基に弊社推定】

◆円 / 米ドル、円/ユーロ為替レート推移

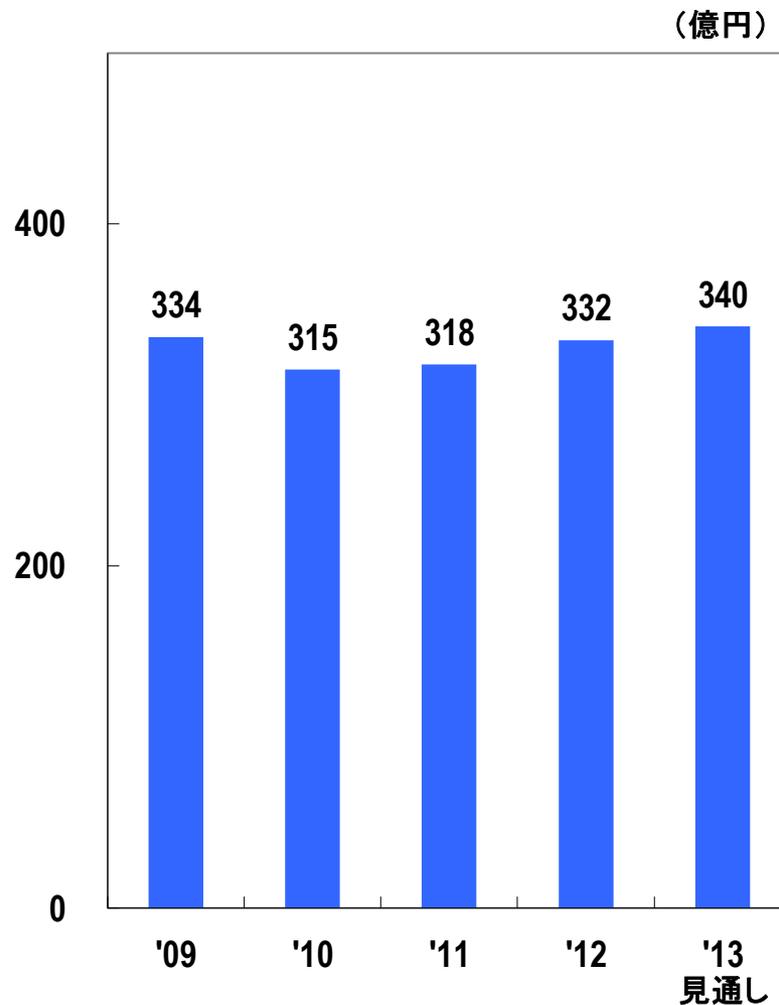


◆設備投資・減価償却費・研究開発費推移

設備投資・減価償却費



研究開発費



◆主要医薬品売上高実績推移

(億円)

品名	薬効	11年度					12年度				
		1Q	2Q	3Q	4Q	計	1Q	2Q	3Q	4Q	計
ボナロン®*	骨粗鬆症治療剤	52	52	54	47	205	33	40	43	42	159
ワンアルファ®	骨粗鬆症治療剤	27	27	30	27	111	18	20	21	20	79
骨粗鬆症治療剤計		79	79	84	74	316	51	60	65	62	238
ムコソルバン®	去痰剤	24	21	30	24	99	21	19	26	24	90
ベニロン®	重症感染症治療剤	23	22	26	23	94	24	24	27	25	99
ラキソベロン®	緩下剤	10	10	11	10	42	10	10	11	10	40
サイビスクディスポ®	変形性膝関節症の疼痛緩和剤	4	4	5	3	17	4	3	3	2	12
トライコア®	高脂血症治療剤	3	4	6	2	15	4	4	5	5	18
ボンアルファ®	角化症治療剤	3	3	4	3	14	4	3	4	3	14
オルベスコ®	喘息治療剤	3	3	3	4	13	3	3	4	4	13
スピロペント®	気管支拡張剤	2	2	3	2	10	2	2	2	2	9
フェブリク®	高尿酸血症治療剤	5	0	1	3	9	7	12	17	19	55

* ボナロン®/Bonalon® はMerck Sharp & Dohme Corp.の登録商標です。

◆疾患分野別臨床開発段階 (2013年3月末現在)

* 承認/新規上市は直近1年間を記載

	臨床開発段階				
	Phase I	Phase II	Phase III	申請	承認/ 新規上市
骨・関節 領域		ITM-058*2 KTP-001*4			GTH-42V*1 [ボナロン®] GTH-42J*5 [ボナロン®]
呼吸器 領域	NA872ET [ムコソルバン]				
代謝・ 循環器領域	TMG-123*6	ITM-077	TMX-67*7 [フェブリク] (中国)		ITM-014*3 [ソマチュリン®]
その他		GGs [ベニロン] (適応追加: 顕微鏡的多発血管炎)	GGs*8 [ベニロン] (適応追加: 視神経炎)		

- *1 GTH-42Vは2012年1月に製造販売承認を取得、5月に販売開始、*2 ITM-058は2012年5月にPhase II 段階へ移行、
 *3 ITM-014は2012年6月に製造販売承認を取得、*4 KTP-001は2012年8月に米国でPhase I / II 段階へ移行、
 *5 GTH-42J は2012年8月に製造販売承認を取得、*6 TMG-123 は2012年8月に Phase I 段階へ移行、
 *7 TMX-67は2012年11月にアステラス中国との共同で中国での臨床開発に移行、
 *8 GGSは2012年12月に視神経炎への適応拡大の臨床開発に着手

◆前臨床段階の導入状況 (直近3年間を記載)

導入契約	導入元	内 容
2012年9月	英Pulmagen社	気管支喘息治療薬導入のライセンス契約締結

◆新規上市医薬品 (2013年3月末現在)

販売名(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
ボナロン® 点滴静注バッグ900 μ g (アレンドロン酸ナトリウム水和物)	骨粗鬆症	既に販売している骨粗鬆症治療薬 アレンドロネート製剤(ボナロン)の注射剤。 経口剤を服用できない患者等への処方が可能となり、服薬コンプライアンスの改善や経口剤に比べて上部消化管障害の低減が期待される。	注射	導入:米メルク社 2012年5月10日に国内販売開始
ソマチュリン® 皮下注 (ランレオチド酢酸塩)	先端巨大症 下垂体性巨人症	先端巨大症及び下垂体性巨人症における過剰な成長ホルモンの分泌を抑制する薬剤。 徐放性と持続的な薬効発現を可能とする製剤処方とプレフィルドシリンジの採用によって、現行の治療薬と比べて利便性とコンプライアンスの向上が期待される。	注射	導入:仏イプセン社 2013年1月17日に国内販売開始
ボナロン® 経口ゼリー35mg (アレンドロン酸ナトリウム水和物)	骨粗鬆症	既に販売している骨粗鬆症治療薬 アレンドロネート製剤(ボナロン)のゼリー剤。 骨粗鬆症領域の治療薬として世界初のゼリー製剤。 良好な食道通過性と型崩れしない適度な硬さを有し、錠剤を好まない骨粗鬆症患者に選択肢を提供できるほか、高齢者に取扱いやすいことが期待される。	ゼリー	導入:米メルク社 2013年3月12日に国内販売開始

ボナロン® / Bonalon® は Merck Sharp & Dohme Corp.の登録商標です。

ソマチュリン® は Ipsen Pharma, Paris, France の登録商標です。

◆新規開発医薬品 (2013年3月末現在)

【Phase III】

開発コード(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
GGs (乾燥スルホ化免疫グロブリン)	視神経炎	本剤の免疫調節作用により、視神経の炎症を抑制し、視機能を改善することが期待される。	注射	共同開発:化血研 (適応追加)
TMX-67 (フェブキソスタット)	痛風・高尿酸血症	国内販売しているフェブリク錠を中国に導出する。本剤は、強力な尿酸生成抑制効果に加え、腎機能低下等により既存治療薬を使うことのできなかつた患者へも使用が可能であり、中国における痛風・高尿酸血症治療の新たな選択肢として、痛風・高尿酸血症患者のQOL(Quality of Life)向上に貢献できることが期待される。	錠剤	共同開発:アステラス 中国 (中国)

【Phase II】

開発コード(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
ITM-077 (Taspoglutide)	2型糖尿病	血中グルコース濃度に依存したインスリン分泌促進作用による血糖コントロール薬。低血糖リスクが少なく、体重減少作用を有する。 週1回投与が可能であり、利便性に富む。そのほか、インスリンを分泌する膵臓ベータ細胞の保護及び再生作用が期待される。	注射	導入: 仏イプセン社
GGS (乾燥スルホ化免疫グロブリン)	顕微鏡的多発血管炎	本剤の抗炎症作用と免疫調節作用により、自己免疫性血管炎を鎮静化させ、標準治療で残存する神経障害(多発性単神経炎)を改善することが期待される。	注射	共同開発: 化血研 (適応追加)
ITM-058	骨粗鬆症	強力な骨形成作用により短期間で骨密度増加と骨折抑制効果が期待できる骨粗鬆症治療薬。既存薬に比べ、強い骨密度増加作用と高い安全性(高カルシウム血症のリスク低減)が期待できる。	注射	導入: 仏イプセン社
KTP-001	腰椎椎間板ヘルニア	腰椎椎間板ヘルニアに対する化学的髄核融解療法剤。 生体内でヘルニアの自然退縮に関わる酵素(マトリックスメタロプロテアーゼ)と同じ構造のヒト型タンパク質であることからアレルギー反応のリスクが少なく、選択的に作用するため、椎間板周囲組織の傷害性が低いと期待される。手術に代わる低侵襲性の治療法の選択肢を広げることができる。	注射	発明者: 波呂浩孝氏、 小森博達氏 共同開発: 化血研

【Phase I】

開発コード(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
NA872ET (アンブロキシール塩酸塩)	去痰	既に販売している去痰剤アンブロキシール塩酸塩(ムコソルバン)の小型徐放錠。 ムコソルバンLカプセルより小さいため、服薬しやすく、分包性に優れることが期待される。	徐放錠	導入:独ベーリンガー ・インゲルハイム社
TMG-123	2型糖尿病	新規作用機序(肝優位型GK活性化作用)による血糖コントロール薬。 血糖コントロールが不十分な患者で有効性が期待されるほか、高い利便性(1日1回投与、腎機能低下患者で用量調節の必要性低い、薬物相互作用の懸念が少ない等)が期待される。	錠剤	

TEIJIN

Human Chemistry, Human Solutions

Human Chemistry, Human Solutions

テイジンブランドの約束を“Human Chemistry, Human Solutions”と表現します。

この約束は、「人と地球環境に配慮した化学技術の向上と、社会と顧客が期待している解決策を提供することで本当の価値を実現することに挑戦し続けること」を意味しています。

私たちはこの約束を確実に成し遂げ、企業理念であるQuality of Lifeの向上に努め、社会と顧客から信頼される企業グループであり続けます。